



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

第293号

令和5年11月30日 発行

編集責任者 初村 一郎

http://www.nagasaki-nishi.ed.jp

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「一●入魂」

校長 初村 一郎

何気ない毎日に「優しさ」が溢れている。そこには、「これだけは譲れない心意気」と「周りへの心遣い」も見て取れる。

とあるラーメン屋でサラリーマン風の男性がラーメンを注文。でき上がったラーメンが来た瞬間、携帯が鳴り席を外した。仕事の話だろうが、しばらくして席に戻り、さあ食べ始めようとしたその時、店主が新しいラーメンと取り替えにきた。「冷めたラーメンは食べさせられませんから」と。お代は1杯分だけ。店主のTシャツの背中には「一杯入魂」と書かれてあったそうだ。この店のラーメンはさぞかし美味しいことだろう。

私が担任だった頃、毎時間の黒板拭きは日直の仕事にしていた。綺麗に仕上げるにはコツがいる。どうしても消しムラができてしまう。それでも、とある日直の生徒が丁寧に心を込めて拭いている。次は国語の授業。上から下に消しムラ（筋）が縦になるように拭いているのだ。次は数学の授業。今度は左から右へ横になるように。まさに「一拭入魂」である。国語の先生も数学の先生も、いつも以上にやる気倍増で授業したに違いない。

長年連れ添った妻を亡くした、とある男性。納骨のため、空路で故郷へ。搭乗手続きの際、バッグの中身を伝え、機内に乗り込み、上の棚にバッグを入れて席に着いた。客室乗務員がやってきて「隣の席を空けております。お連れ様はどちらですか？」と。男性が上の棚だと答え、と、バッグごと下ろしてシートベルトを締めてくれたそうだ。「お連れ様の分です」と飲み物も出してくれたという。まさに「一飛入魂」である。最後に2人でいい旅行ができたことだろう。

私は気が向いた時、ジョギングをしている。浜口町周辺の歩道を走っていたら、前を歩く、とある西高女子生徒。後ろからどんどん近づいてくる足音を察知してか、さっと端に寄って「こんにちは」と元気よく挨拶してくれた。私が校長と気づいてのことか、そうでないかは定かでないが、走る邪魔になるだろうと、わざわざ足を止め、清々しい挨拶付きで道を譲ってくれた。まさに「一歩入魂」。その後、ついつい走るピッチが上がってしまい、後で後悔した。

私は6年ほど、片道1時間のバス通勤をしていた。うっかり定期券の切り替えを忘れて乗車。財布の中を見たら1万円札と小銭が少々。停留所に止まるたび、お年寄りには「ゆっくり、段差があるので注意してください」と親切に声をかける、とある運転手。私の降りる停留所が近づき、覚悟して両替を申し出たところ「また今度乗ったとき、2回分払ってくれたらいいですよ」と爽やかに対応してくれた。まさに「一停入魂」である。次回、3回分払いたい気持ちにさせられた。

授業で発するひと言ひと言に心を込めて「一声入魂」。そして、綺麗に拭かれた黒板に「一筆入魂」、板

書は心を映すもの。我々、西高職員も、「この先生がそこまで言うなら」と思ってもらえるよう、生徒たちの心に響く存在であり続けたいものだ。

後期生徒会役員任命式 10月24日（火）

10月10日（火）に令和5年度後期生徒会役員選挙が行われました。第一体育館で実施された立会演説会では、各候補者は「西高を良くしたい」「西高生活を活性化させたい」などそれぞれの胸の内を全校生徒に向かって熱く訴えていました。10月24日（火）には任命式が実施され、新生徒会長に就任した藤田祐樹くん（2年8組）をはじめとする2年生6名、1年生5名の計11名の新生徒会が発足しました。任命状授与に続いて新旧役員引き継ぎ式が行われ、旧生徒会長の道山優香さん（2年1組）から新生徒会長の藤田祐樹くんへ生徒会看板が引き渡されました。後期は、西高誌の作成、イルミネーション、3年生への横断幕作成、校内競技大会などが計画されています。生徒のみなさんにはさまざまな場面で協力をお願いすることになりますが、よろしくお願いいたします。



【自律活動部 岩本 清】

第43回同窓会講演会 心に響く人生の達人セミナー 2日（木）

創立記念日には、社会の第一線で活躍されている本校卒業生を講師に招いて同窓会講演会を開催しています。今年は、本校第34回卒業生である 小阪 好洋（こさか よしひろ）氏（長崎税関長）をお招きし、『Game Changer』と題して講演をしていただきました。小阪氏は昭和56年に野球部のエースとして夏の県大会優勝に尽力されました。講演の中で、直前の大会での大敗がチームワークをより強固なものとしたとのことで、生徒たちも興味深く耳を傾けていました。現在は長崎税関長として、国の安全を守り貿易の円滑化等のために活躍されています。税関の業務内容の紹介では、実際に麻薬探知犬2頭が登場し、生徒・教職員を交えてのデモンストレーションは大いに盛り上がりしました。職業選択からキャリアアップを含め、どう考えていくか。ご自身の経験を踏まえ、時にユーモアを交えて話していただきました。何より講師の先生の柔らかな語り口の中にある意思の強さや誠実な人柄に感銘を受けた生徒も多く、感想文には「税関の仕事内容について知ることができ、国の安全を守るという責任感を持って働くことの偉大さがよく分かった。」「厳しい時代で自分自身を磨き上げていった先輩達のように自覚を持って勉学に取り組みたい。」という、確かな手応えを感じさせるものが多くありました。たえず自分を磨くことの重要性に気づかせていただいた非常に有意義な講演会となりました。

同窓会主催による講演会も今年で43回目を迎えました。講演会にご出席いただいた長澤同窓会副会長をはじめ同窓会の方々には、講師の人選などさまざまなご支援・ご協力をいただきました。在校生のために、各界の第一線でご活躍されている先輩方から、貴重なお話を直接聴くことができる機会をいただいたことに、心から感謝申し上げます。



【同窓会事務局 山中千人志】

長崎県高等学校総合体育大会 駅伝競技 2日（木）

雲仙・小浜マラソンコースで第75回長崎県高等学校総合体育大会駅伝競走大会が行われました。試合前、怪我や故障などで万全の状態ではありませんでしたが、なんとか本番に間に合い、男子が13位、女子が8位という結果でした。次回は、2月に諫早で駅伝の新人戦がありますので、日常生活も含めてベストの状態で頑張りたいと思います。最後に、駅伝当日、補欠や付き人として協力してくれたマネージャーや、サッカー部と女子バドミントン部の部員には大変お世話になりました。ありがとうございました。

【陸上部顧問 中尾 賢治】

令和5年度長崎県高等学校総合文化祭 第29回科学研究発表大会 3日(金)

標記の大会が、鎮西学院大学を会場に実施されました。本校の物理部、化学部、生物部、地学部がそれぞれの部門で研究発表を行った結果、口頭発表のすべての部門で最優秀賞を受賞し、来年8月に実施される全国総文祭への出場権を4部とも獲得するという快挙となりました。本校からは口頭発表と展示発表あわせて12の研究発表を行い、計7作品が12月の九州大会（熊本県）へ、うち4作品が来年8月の全国大会（岐阜県）へ出場することが決定しました。

【物理部顧問 田中 潤】



《各部門の最優秀賞受賞作品の研究タイトル》

物理部「変形するボールと反発係数について」

化学部「金属イオンを用いたイノシン酸の検量線の作成について」

生物部「アカハライモリが餌として認識する大きさについて」

地学部「浦上川のへドロ堆積の研究」

人権教育 7日(火)

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の一環として、本校では毎年11月に「人権教育」の時間を設け、人権意識の更なる向上と深化を目指した取り組みを行っています。本年は『アサーティブネスの実践に向けた心構えの構築』というテーマに沿って、各学級におけるワークショップ形式で学びを深めました。相手の意見にただ従うのではなく、自分の意見も主張する。なおかつ相手の立場や考えも尊重する—この姿勢をお互いに身につけることは、相手を大切にするという人権意識を高めるだけでなく、お互いの心の健康の増進にもつながります。これを日々の生活の中で実践することで、生活の質の向上やキャリア形成にも大きく寄与します。この日の学びがその「きっかけ」になることを願ってやみません。本講座を含め、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」に際しては、多くの保護者の皆様に本校の教育活動の一端をご覧いただきました。心より御礼申し上げます。

【総務部 田村 勇樹】

令和5年度 科学の甲子園県予選 11日(土)

長崎県庁において「科学の甲子園」全国大会長崎県代表校選考が開催され、2年生と1年生からそれぞれ1チーム（8名ずつ）が出場しました。競技内容は実技競技と筆記競技があり、それぞれ4名、6名のチーム戦で行われます。実技競技では、事前に公開されたルールのもと、紙の弾性を利用して射出した粘土をコップなどの的に入れ得点を競うというものでした。競技前日まで試行錯誤しながら試作を重ねましたが、コンディションが異なる会場で、学校での試作機から得られたデータがあまり使えず生徒達もかなり苦労したようでした。しかし、1年生が1位を獲得するなど、地道に開発を続けた成果を得ることができました。筆記を含めた総合では、2年生が1位の成績を残し、2年連続の全国大会への切符を手に入れました。

【SSH企画推進部 権藤 好信】

第31回衛星設計コンテスト 25日(土)

事前の書類審査により、全国29件の応募の中から、本校を含む8チームが最終審査会でのプレゼンテーション発表に臨み、本校の研究発表が「ジュニア実験賞」（5位入賞）を受賞しました。研究テーマは「ソーラーセイルによる静止軌道輸送システム」です。宇宙空間で薄いアルミの帆を張ると、太陽光から押されてヨットのように力を受けます。燃料不要で加速ができるため主に惑星間移動に使われてきたこの技術を、地球の周辺で自由に高度を変更する用途に使用できないか検討し、研究発表を行いました。小さく畳んだアルミの帆を、宇宙で大きく展開する必要があるため、独自の折り方で畳んだ紙製の試作品をプレゼン中に実際に展開するなどの工夫も行いました。九州大学工学部やJAXA宇宙科学研究所での研修も経験でき、宇宙に対する興味と理解が一層深まった一年間になりました。



【物理部顧問 田中 潤】

学年だより

第1学年

— 「できること」と「すること」 —

11月のさる日、学校へ一本の連絡がありました。電話主は3歳の娘さんを持つお父さんです。長崎駅近くで路面電車に乗車していたところ、娘さんが体調を崩し車内で嘔吐してしまったらしいのですが、その際、本校1年生の女子生徒が自ら除菌シートやティッシュを購入し、娘さんの衣服の汚れを拭き取り、とても優しい言葉をかけてくれたそうです。「名前を聞くことができなかったことが残念だがとても感謝しています。ぜひこの感謝の気持ちをお伝え願いたい」とのことでした。後日、この生徒から話を聞くと、前日自分は偶然救急搬送される人を見かけたが、その時は何もすることができなかったのも、いつか同じような場面があったら自分にできることをしたいと考えていたと話しました。

一報を受け取ったときには、普段接する生徒の中に、このような優しい心根を持つ人がいるんだなと嬉しく思いましたが、この話を聞いて少し認識を改めました。ああ、この人は自分に「できないこと」を自覚し、なんとか「できる」ようになりたいと自分なりにチャレンジしてみたのだなと。

学業や部活動に励む高校生活には、自分にできることとできないことがあり、そのことが日々の悩みの種となりがちです。このできないことをなんとかできるようにしたいと誰もが毎日を過ごしています。このことについては「できる・できない」ではなく「するか・しないか」が大切だと話す人もいます。

もうすぐ今年も終わりを迎えます。この1年は西高に入学し、さまざまなことを経験し挑戦を続ける毎日があったはずですが、もちろんできたこともあれば、できなかったこともあるでしょう。12月11日から予定されている三者面談では、今年のここまです振り返りつつ自分にできたこと、あるいはできなかったことを確認し、何をすればあるいは何をしなければ来年がより良い一年になるのか一緒に考えていきたいと思っています。

【第1学年主任 石橋 可巳】

第2学年

— 勝負の時に向かって、着実な努力を！ —

2学期も残すところあと1ヵ月となりました。令和5年はお子様にとってどのような1年だったでしょうか。3年生は大学入学共通テストおよび個別試験に向け、今、全力で頑張っています。来年はいよいよ77回生の番です。

77回生の大学入学共通テストまで、あと1年2ヵ月を切りました。その勝負の時に向かって、コツコツと学力を積み上げていけるかどうかです。もう一度、ご家庭でもお子様の学習への取り組みを確認していただくとともに、励ましをよろしくお願いいたします。

また、12月には三者面談を予定しています。お子様の現況や進路について有意義な意見交換を行うことで、生徒自身が覚悟を持って勝負の年を迎えることができると考えています。ご多用な中恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

【第2学年主任 宗田 将平】

第3学年

— 共通テストまであと50日 —

11月は校内模試、各種大学別模試、共通テストプレテストなどが毎週末実施され、受験に向けての準備がさらに加速する月でした。先日、進路検討会において一人ひとりの成績状況や志望校について確認し、今後の進路・学習指導の方針を共有しました。残りの日々は、それぞれの進路実現に向けて優先順位を付けながら努力することが大切です。

11月24日(金)に共通テスト50日前集会を実施し、同窓会より激励とともにマークシート用の鉛筆をいただきました。いよいよ受験が近づいてきたことを実感しました。76回生も一丸となって体調管理に気を配り、本番まできついことも乗り越えて頑張っていきたいと思います。お子様が前向きに進路実現に向かっていけるように支えていきたいと考えていますので、最後までご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【第3学年主任 月川 希】